



# 琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	琉球に於けるパイン産業発展上の諸問題 (2)
Author(s)	渡辺, 正一
Citation	琉大農家便り(49): 4-5
Issue Date	1959-12
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20211">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20211</a>
Rights	



寄稿者 渡辺教授

# 琉球に於ける

## パイン産業 (2)

### 発展上の諸問題

#### 二、パイン栽培上

#### 考慮すべき諸問題

琉球におけるパインの栽培技術が、ここ数年間に格段の進歩を示したことは私にとって極めて愉快なことであります。私は昭和十四年一月号の台

湾農会報の創刊号に「台湾パイン産業の技術的将来」と題して私が昭和十年ごろから考えて居た事を、将来の希望に託して記述したが、その夢は漸く終戦後の今日になって報いられた。当時の記事を再掲載することは冗長のそしりを免れないと思うが、本文は琉球のパイン産業改善に対しても参考となる処が多いと思われるから、ここにその一部を掲げることとする。

#### 三、栽培技術の進路

私は前章において、パイン罐詰の品質改善上重要な役割りを演ずるものが原料パインに依る所大なる事を述べたが、私の原料に対する観念は更にそれ以上で、台湾のパイン産業が安全に進歩し今後一層発展する上に最大の基礎的根柢を与えるものは「台湾にどれ位よい品質のパイン果実が出来るか、そして生産費を何処まで低下さす事が出来るか」の二点にあると信ずる。然らば良い品質の果実を揃えるにはどうすればよいか。

第一に考えなければならぬことは品種である。台湾のパイン品種は在来種と外国種に分れているが在来種は有刺紅皮種、無刺紅皮種、黄皮種、烏皮種等があつて、是等で作つた罐詰は総て在来種罐詰として取扱われている。是は今から相当考えなければならぬ事で、将来新品种が交配その他で多数出て来た場合の事を考えると、今から品種の観念を農民に教え、罐詰用品種の統制を行う必要がある。又罐詰業者も品種別罐詰製造を行うか、あるいは相当の対策を講ずる必要がある。

第二は収穫適期の問題である。パイン罐詰上の難点は成熟果を取れば、製造までに腐敗果が多く出来、未熟果を取れば追熟困難の為に品質不良の罐詰が出来る。是は台湾の様に原料果実の生産がほとんど農民の手で行われる所では実に困難なことで、この点農民は台湾における斯業発展の為に利己主義に偏せず罐詰業者の好む程度のものを探果する様心掛ける必要がある。私は品質を揃わす為には原料買取の時に未熟果その他不良果実を嚴重に検査するを可と信ずる。但しこれを行うには罐詰業者も収穫買取製造の各段階を円滑ならしめる様な万善の手段と工夫をなさねばならない。又品質の向上及び均一を図る為には品種の統一より更に一步を進め、同一品種内の集団淘汰並に個体選択を行う必要が生ずる。

次に生産費を低下せしめる為にはどうすればよいか。これには現在の国家的観点よりするも、個人的立場から見ると、収穫量の立体的増加即ち粗放栽培から集約栽培に転向し、単位面積当りの増収を図ることが最も効果的であると思う。然らば如何にすれば単位面積当りの増収が得られるか。これについては在来種と外国種により、中部と南部により夫々多少の観点を異にする必要があるが、(イ)栽植前の圃場予措を完全にすること、(ロ)肥料を増加すること、(ハ)栽植本数を増加すること、(ニ)病虫害の駆除予防を徹底すること、(ホ)不良系統を淘汰すること、(ヘ)悪い苗や小さい苗を栽植しないこと、(ト)土壌の流失を防止すること等の七項目に細心の注意を払わねばならぬ。現在私の最も苦心する所は高雄州においては如何にすれば害虫特にパインコナカイガラムシを駆除し得るかであつて、台中州では何とかしてこのコナカイガラムシの繁殖を予防しなくてはならぬということ、不良系統を優良系統に置換することである。

私は台湾農民に病虫害駆除予防の心を植えつけない限り、如何に優良な品種を奨励し、如何に立派な栽培方法を教へても大なる効果を期待することが出来ないと思ふ。集約栽培を奨励するには病虫害駆除の頭を作ることが先決問題で、集約栽培を行わない限り原料生産費の低下は難かしく、従つてパイナップル生産費も大なる引き下げが困難となるのであらう。

即ち台湾のパイナップル栽培は近い将来において先ず品種に対する根本観念を改め、更に是が系統に及び、栽培方面においては今まで全く考慮されなかつた病虫害駆除予防薬剤の普及と栽植本数の増加が主として論議せられ、是に附随して開墾施肥その他万般の技術的改善が行われるであらう。然しながら若し指導宜しきを得なければ上記の動向は総て単位面積よりの増収即ち収量ささげれば品質はどうでもよいという傾向に向つて流れる危険が多分に存する。

昭和二十七年私は台湾鳳梨公司の招聘により終戦後第一回の渡台をしましたが、当時における私の努力はこの昭和十四年における私の夢の実現にあらう。昭和三十三年における第二回目の渡台は私にとつて極めて愉快な旅であつた。私のパイナップル栽培に対する夢の実現がまじかに迫つて居ることを私はこの眼でみたからである。私は台湾大学において農学部学生及び先生の前で台湾のパイナップルは少なくとも栽培の面では成功した。間もなくヘクタール当り収穫量は五年三回収穫で七十トンが可能であらう。そして現在選抜されている優良系統の配付が行われるようになればヘクタール当り百トンの収穫も決して夢ではないと申したのであります。私がこの様に極言する事が出来たららには更に今一つの理由があつた。それは技術的に更に進歩の基礎ができていたからである。まことに失礼な申し分であるが私が第一回渡台をした當時においては技術者の技術的水準は決して高いものではなかつた。従つて私の助言を受け入れることによつて一応ある程度の進歩はするが、今後更に進まんとする場合に、その前にはだかる困難の壁を破ることが出来るかどうか、私には多大の疑問が存在した。しかし私の心配は杞憂であつた。パイナップル産業は台湾における農業関係者の注目の的となり、新しい研究者が続出した。私もまたこの

為に出来得る限りの努力を行なつたが、幸いにして糖業公司は私の第二回目出張を機会に全島のパイナップル栽培主任及び研究者を風山熱帯園芸試験分所に集め講習会を開催したが、私はこの席において極力問題の理論的な説明と、今後の諸問題についてその研究のありかたに就いて述べた。昭和三十三年私は第三回目の台湾出張を行なつたが、その時における私の驚異は、台湾におけるパイナップル研究者の積極的な研究意欲とその業績であつた。特に台湾鳳梨公司第六農場における蘇楠榮氏を中心とする栽培上の基礎試験やてい長佑氏の系統分離成績及び風山熱帯園芸試験分所における實際的試験は注目し得るものがあり、私は最早台湾のパイナップル産業はハワイその他に比較して充分競争し得る実力を備へることが出来ると思ふのであります。琉球のパイナップル栽培技術は台湾と同じようなコースで発達したものであり、しかもその発達速度は台湾のそれよりも一層速やかであつた。

私はもはや琉球の一般的なパイナップル栽培技術は台湾に劣つて居るとは考へない。しかし私はここであえて申さなければならぬことは、琉球のパイナップル栽培技術は見かけ上台湾と同等ではあるが、根本的には数段おくれであるということである。台湾では私のいつた事や指導方針を改めて試験した上で検討し、すでに指導の基礎を自らの手で作つて居るが、沖縄ではまだその事が行われていない

いかえると琉球のパイナップル栽培技術は決して是が最上であるとの確信の下に行われて居るわけではないのである。私は一昨年始めて渡琉して以来、密植、敷草、大苗使用、等高線植を唱へ、優良系統の導入を提唱しており、また冠芽や齋芽の除去カーバイトやナフタリン<sup>ナフタリン</sup>の利用による収穫期的人為的変更を指導しているが、これは台湾では成功しているから、こちらでも行なつたらどうかという程度に過ぎない。残念ながら今まではそうした方法の研究結果がないことと、筆者の今までの経験からこの様に指導しても大過はないものと思ふからある程度断定的な指導をしている面もあるが、その具体的な方法や局地的な変更を加えるためには現地で再試験を行うことが最も賢明な方法であります。私はこれが故に研究職員

の充実を叫んで居るわけでありませぬ。琉球の中でも八重山は台湾に氣候が似て居るから、台湾の試験結果で充分に間にあつた場合のあることは事実であります。しかし八重山には暴風、潮風という台湾とは違つた困りもあり、これに対する研究は当然行ななければなりません。特に沖縄のパイナップルは冬季の寒さのために色々と別個の問題が起ることを覚悟しなければなりません。しかも琉球は台湾に比較し労賃が高いから是の不利を他の面であらうめ合わせるように考へねばなりません。品質の点も改善すべき大きい点であります。